

ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどうした事でしょう」)

えびの市加久藤の皆さんに感謝！その②

施工2回目、加久藤トンネル山頂観光リフォーム看板作業。両面看板の片面を貼り終え、裏面の看板へ。あれ…看板の先端部分が干渉しあって指定の位置で固定できない…。



急遽えびの京町のホームセンターへ。店員さんに事情を話し、工具を購入するので店の脇でカットさせて欲しいとお願いすると、チョット店長に聞いてきますと嫌な予感？若い店長が険悪オーラいっぱい

いで登場。店内では作業は出来ないと言。店長の顔はこれ以上言っても無理を体いっばいで表現出来ていました。

さて困りました。宮崎に帰って作業して戻ると3〜4時間が必要、これでは作業は日没にかかります。うーん、鉄工所みたいな所でカットしてくれないかな？と車内で話していると目の前に板金工場が。

発行 有限会社ナツプ
編集責任 中田 等
発行日 平成二十九年七月
問合せ先 〇九八五五一七四〇九

父の日

六月の第三日曜日は、「父の日」。今年は、母のリクエストで父の肌着をプレゼントした。

父が元氣だった頃、父の日は、弟や妹達と食事に出かけ、毎年、同じ昔ばなしの繰り返しで笑った。

脳梗塞で倒れてからは、プレゼントは、ポロシャツ、ズボン、帽子、靴等の、日用品へと変わっていった。

私が子供の頃の父は、休みになると家族をあちこちへ連れていった。動物園や遊園地、お祭りなどに行った記憶はほとんどなく、夏は川遊び、海で潮干狩り。春は山へ山菜狩り、もちろんお弁当を持参して。今思えば、何と贅沢な時間だったろう。

そんな時間を、父は私の子
エトピアビジョン
からのお知らせ
宮崎市江平交差点にて、ナップが運営させていたたいなあ、大型LEDビジョンのお知らせです。皆さんの自慢できる写真、たとえばワン

ランチ野郎 見参！

ランチ野郎「焼肉食べたいの巻」(焼肉花粹苑)霧島神宮の近くに、焼肉食放題千二百円の店がありま

今、施設で暮らす父には、川で子供たちのためにダムを作ってくれた頃の面影はない。大きく、遅しかった父は、今は小さくなって車椅子に座っている。一緒にシュークリームを食べながら、私の話にうなずく父。私は妻でもなく、母でもなく、父の娘になる。父に守られて過ごした日々に戻っていく。

お喋りができなくても、車椅子でも、父と過ごす、このおだやかな日々が、どうか一分、一秒でも長く続くよう、心から願った父の日だった。



ちゃん、ネコちゃん、趣味の絵画や風景スナップ等を、無料にて掲載・放映する枠を、現在企画中です。見てほしいなあ、自慢したいなあという方がいらっしやるなら、是非弊社までご連絡ください。



妻と二人、食べ放題と生ビール。メニューは、中学生以上が千二百円で、小学生までは五百円となっています。しばらく待っていると最初のお肉が運ばれて来ました。キムチと小鉢、お味噌汁、ごはん、タレが各2セットで、肝心の焼肉は、牛カルビー、牛ロース、豚バラ、鶏モモ、ウィンナー4本、ピーマン、



キャベツ、ナス、カボチャが盛合わせてありました。うわさ通り相当な量が出てきました。食べてみると、豚肉と鶏肉は国産のようで、さすがに牛カルビーと牛ロースは外国産のようでしたが、チェーン店の食べ放題の店と比べても断然こちらのほうが美味しいと思います。これだけでも食べられるだろうか？と心配になりましたが、人間の欲望は恐ろしいもので、絶対追加注文をしなければ元が取れない！と、「牛カルビーと豚バラを少しだけ下さい」と追加注文。やっとの思いで完食して店を出しましたが、お腹一杯お肉を食べたのは久しぶりの経験でした。今日の教訓「花粹苑に行く時は、ユルユルの汚い服で行くべし！」(大)

花を訪ねて！①

ミヤマキリシマ



私は花が大好きです。

今までに、生駒高原の菜の花やコスモス、高鍋のひまわり、門川のおじさい、観音池公園の桜、新富町の座論梅など、宮崎の花の名所を訪ねました。

今年も、五月に霧島の中岳中腹のミヤマキリシマを見に行きました。

昨年も行きましたが見ごろが一週間過ぎており、とても残念な思いをしました。

けれども今回は、満開の花を見る事が出来ました。

高千穂河原から十五分程登ると、視界が一気に開けて、広大な草原があらわれます。

その中に、ツツジのピンクの花が一带に咲き誇っているのは、圧巻でした。近場の為か、多数の観光客が、ハイキングに来っていました。

その後、近くの鹿ヶ原にも行きました。

ここは、六年前の新燃岳の噴火で、ツツジが一時全滅の危機に瀕しましたが、見事に花が再生しました。

松や杉は、噴火の影響で立ち枯れたままなのに、窪地の

運動場ほどの平原は、ツツジの花だらけで桃源郷に迷い込んだような錯覚を起こしました。



四方を、高千穂の峰、中岳

龍王山、矢岳に囲まれているので、それだけでも気持ちが悪らぎます。

そして、人が少なく貧しい状態の為、静かでマイナスイオンをたっぷり浴び、命の洗濯ができました。

皆様も、ぜひ来年は、ミヤマキリシマを見に行かれてはどうでしょうか。

自然の素晴らしさを実感できると思います。

(百)

いんちきクワイマーが行く！ 「低山なれど名峰なり」 剷鉢山①編

剷鉢山(クンパチャマ)は、標高はわずか、五百メートルの低山です。

国道220号線にて、宮崎南バイパスを進み、県運動公園が近くなると、右手に鶴戸・徳蘇山系の山々が見えてきます。

その一番手前で見える、シグザグのピークを持ち、ついたてのように広がっているのが、剷鉢山です。

その後ろに又一つとそびえるのが花切山で、右となりにイビツな形で鎮座するのが双石山です。

小学校五年生の僕の山デビューがこの剷鉢山でした。

曾山寺のバス停から延々と歩いた記憶があります。それなりに人気の山ですので、登山口は、いくつもあります。

曾山寺の鳥居口からは二時間かからないで山頂へと行けます。

同じ曾山寺でも、林道の悪路を車で登っていくと、穴元登山口です。

ここからは15分で山頂へ行けます。加江田溪谷内からのルートは広河原登山口でしたが、橋が流れてしまったので、ほとんど使われなくなりました。

たまたま物好きが川を徒渉して使ってます。

と、喜ぶのもつかの間、平成登山道のメインアクティビティ？である、急峻な岩峰登りが始まります。

固定ロープは、年々古く、これに全幅の信頼をおいて登るのはお勧めできません。

木の根と岩をしっかりつかんで、三点確保でガシガシと登りましょう。

体力をしばらくつ、なんとか三度目の岩峰を登り終えると、尾根の肩に乗ります。

木々が多少うるさいですが、ここから市街地(清武町・医大方面)を見る事ができます。

ようやく高度感を味わえるポイントに立っています。

ここで一息いれておかないと、後がつらいです。

平成登山道の行程は、まだ三分の一あたりです。

つづく (賢)



編集後記

NHK総合で土曜日夜六時から、『みをつくし料理帖』という時代劇をやっています。

チャンバラではなく、当時の市井の人々の暮らしに光をあてた、料理屋を舞台とした物語です。

大阪(上方)から江戸で暮らす事になった料理人の主人公が、文化のギャップに悩みながらも成長していきます。

上方は始末の料理。無駄を出さない、もったいないの気持ちが作ったものに対し、江戸は粋の文化。

初ものならば法外な値段でもやせ我慢して食するというやり方。さて我々のような九州の片田舎の住人にとっては、食というのは、どちらの文化圏に属するのでしょうか。

やはり上方よりなのかとも思いますね。

さて、私のこだわりは、冷汁です。

これを「ひやじる」なんて読むのは田舎者ですね。

ネイティブな宮崎人ならば「ひやしゆる」と呼んでいるはず……。

(賢)